

## 勤務医部会だより

### 外国人受け入れ事業（続）



幹事 黒川 剛

昨年度当院では経済産業省が公募した、「平成27年度医療技術・サービス拠点化促進事業（外国人患者受入の事業性評価に向けた実証調査事業）」に取り組みました。このことは以前別の場所で途中経過を報告しましたので、そちらを読まれた先生方は一部内容が重複します点をお断りします。さて、この事業の目的は、公募要領をそのまま丸写しすると、「医療機関における外国人患者受入促進のための取り組みについて幅広く提案を募り、国の委託事業として支援を行うことで、日本の医療技術・サービスの国際化や国際競争力の強化を目指す」となっています。先生方すでにご承知のように、わが国は「日本再興戦略」の名の下に、日本の医療技術やサービスを海外に展開しようとしています。この内、海外に医療機器や技術（場合によっては病院全体）を売ることが目的としたアウトバウンドに対し、海外から患者を集め日本で医療を提供しようとするものをインバウンドと呼びます。このインバウンドの施策を加速させるために、全国からアイデアを募り、予算を注入することでその効果を評価しようとするのがこの事業です。

採択された私どもの事業名は、「肝・腎・糖尿病専門外来・セカンドオピニオン外来と長期フォロースキームの確立」でした。対象国は中国としました。元来、私も病院も外国人を受け入れるのに積極的ではありませんでしたが、事情があって日本でインバウンド関係の事業を目指している中国人医師を雇用している関係で、この事業に応募したものでした。私どものアイデアの内容は、現在、中国で肝疾患・腎疾患・糖尿病で治療を受けている患者で、日本でセカンドオピニオンを受けてみたいと思っている人を集めるというものでした。受診した患者は、帰国後もインターネットを通じて最低1年間、当院がその患者さんをフォローすることにしました。本年2月末にこの事業は終了しました。この間、肝疾患9

名、腎疾患1名、糖尿病1名の合計11名の患者が受診しました。ご承知のとおり、中国はウイルス性肝炎の多発国ですので当初から肝疾患の患者が多いことは予想していましたが、結果的にこのようになりました。ただし、いずれの患者も病状は軽く、ほとんどは観光を兼ねて来日した人々でした。しかし、なかには治療薬の処方希望する患者、後日再来日するので入院治療を受けたいという患者もいました。この診療のひとつの特徴は、帰国後も病院と患者がコミュニケーションツールを通じてフォローできるというものですが、現在これを利用してやりとりをしている患者が約半数います。この人たちは現時点で来年以降も受診の希望があるようです。

さて、この事業で経済産業省の設定した目標は患者10名でしたので、一応目標をクリアしたことになります。3月16日には公開の場で事業の結果を報告することになっていますが、この先2、3年のアクションプランを含めるように指示されています。医療のインバウンド・アウトバウンド関係の取り組みをしている企業や病院が多数集まるようです。私どもの事業を含め、昨年度採用された3件については、近々経済産業省のホームページに掲載されます。ご興味のある先生がいらっしゃるようでしたらご覧になってください。私どもは比較的規模が小さい事業でしたが、他は規模が大きく（重粒子線治療に関するものと外国人の透析患者を受け入れる全国の施設のネットワーク化に関するものだったと思います）おそらくいずれも膨大な内容の報告書が掲載されるものと思います。また、本年度も経済産業省の同様の事業の募集があるようですので、関心のある先生は5月頃だと思いますが、やはり経済産業省のホームページをチェックしてみてください。

最後に、経済産業省にはヘルスケア産業課というところがあって、この他に医療機器の開発など医療に関わる事業をいくつか公募しています。アイデアのある先生方はチェックしてみると面白いかもしれません。

（増子記念病院）